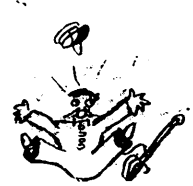
和田争議ニュース

NO.3 昭和十二年七月十日
日本印刷組合 横浜一般労働組合 和田分会
川島
[illegible]三丁目十八番地

争議はダンゼン争議団側のリードだ！
虎の威をかる山下クン
悲鳴をあげた一幕！

争議は今日で五日目た、一度和田争議団の悲壮な戦の報が知れ渡るや、かつての闘士の応援、寄附が続々と舞込んで来る。六日には同情ある寄附や激励の手紙が、あるや神戸の森田氏より、ウレタの近藤栄蔵氏が日本部を訪れて来られた。又石井氏の応援で印刷工の諸君の激励の辞を述べられた。団本部には全印刷工の意気も述べられた。争議団の元気は益々旺盛で、毎日本宅附近をデモって戦ひ争議団の元気を変りない。山下君は何かで迷った出した山下君は何か言ひ争ひ出したを工場から二、三人連れて工場へ出かけた。

さて八日の代表若干名呼び出して話合ったが、工場側の従業員代表と共に行って見るとズラリと鎮座した何に、警察のお役人もおる、虎の威をかる山下クン平素に似ずモッタイぶった切口上で要求……



われは全部容れる事は出来ない、職工は動かない。今てゐたのに働らかないから工場閉鎖する。引さげて貰いたいとタクセンだ。

アゲケルナ！容いしら御俺達が善良な労働者でも要求したのただの一つも容れられないで、（ハイ承知しました）と引下げるかとそんなおかしで甘い手にのる俺達ではないぞ。俺達はダンゼンハネつけて闘争を継続する事を宣言した。

七月九日職工全員に対し正式の工場閉鎖宣告、解雇通知状が来た。団より俺達は予定の行動に、覚悟の前だ。サアガッチリと腕を組んで戦へ！

労働者をナメルナ！

十日朝突然和田本宅へ押しかけた。不意をくらって奥さん、機嫌を利かしてオットへ居留守を使ったが、お父さんは下川瀬山梨県前県会議長の手はくはぬ。お父さんも、せめて一人に俺達の面会を追求、居るんだと言ってシドロモドロ。ブルブルふるへて和田の方に逃げ込んで責任を免れた。工場の方は無理にでも逢ふと御老体を恐れ、へたばった。はせる事に頑張ってもと気の毒な位、のかなと引込げたオラが山梨県で思っ、にのっさり平倒された。ての余りに飛ぶ鳥を落すオラが、横浜の労働者の前では飛ぶ鳥にも色を失ふ惨めな狼狽振りだった。